

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書

行動科学に基づいた肝炎医療コーディネーターの養成と  
スキルアップに関する研究

研究分担者 平井 啓 大阪大学大学院人間科学研究科准教授

研究要旨 最終的に肝がん罹患のリスクを取り除くために必要な肝炎ウイルス検査・治療に関するコミュニケーションのあり方について、肝炎医療コーディネーターが対象者に対して「受検」「受診」「受療」を「ナッジ」（軽く背中を押す）するために、望ましい行動を阻害する人間の心理的要因とその解決策を行動科学（行動経済学）の観点から提示し、「ナッジ」を構築するための解説書の作成を行った。その結果、肝炎患者・肝炎ウイルス陽性者の「受検」「受診」「受療」という行動を「ナッジ」するためには、対象者に対して、受診しないことによる具体的な損失、ピア効果、受診による損失の低さ、受診による利得の高さを提示していくことが必要であるとの結論に至った。そしてこれをもとに、リバタリアンパターナリズムの概念からナッジを構築するポイントをまとめた解説書を作成した。

A. 研究目的

肝炎患者の治療行動を促すために、「受診」行動への阻害要因を明らかにし、最終的に肝がん罹患のリスクを取り除くために必要な肝炎ウイルス検査・治療に関する情報提示のあり方について、行動科学（行動経済学）のアプローチの観点から、これまでの普及啓発の取組の再検討を行い、肝炎医療コーディネーターの必要なコミュニケーションスキルなどについて提言を行う。

昨年度までの研究では、肝炎医療コーディネーターは対象者を「ナッジ」するコミュニケーション・スキルを身につける必要があることを提言し、肝炎医療コーディネーターの対象者を「ナッジ」するコミュニケーションスキルの具体化を行った。本年度は、望ましい行動を阻害する人間の心理的要因とその解決策を提示し、肝炎医療コーディネーターによる「ナッジ」を構築するための解説書の作成を行う。

B. 研究方法

これまでの本研究班の報告書やインタビューデータと連携研究プロジェクトである、「治療と職業生活の両立におけるストレスマネジメントに関する研究」にて行った身体疾患ならびにメンタルヘルスに関して両立・休職・復職支援を担当する支援者対象のインタビュ

ー調査の結果を検討材料とし、肝炎医療コーディネーターが学ぶべき行動経済学概念について抽出し、その解説を作成した。

C. 研究結果

以下のように肝炎医療コーディネーターが患者への支援の際に経験する典型的な場面に関して行動経済学概念を用いた説明が作成された。

① 損失回避性

肝炎と分かっているにもかかわらず検査を受けない患者は、現在の生活を失う怖さが受診への積極的な態度を阻害している。私たちが意思決定を行う際に確実なものとはわずかに不確実なものでは確実なものを好み、利得と損失が同程度のときには損失回避の行動をとる、というプロスペクト理論に基づいて考えると、受診しないことによる損失の具体的説明、受診による損失の低さの提示、受診による利得の高さの提示が必要となる。

② 現在バイアス

治療を先延ばしにする心理には、現在バイアスが影響している。つまり、検査を受けるという努力をすることで得られる将来の利得の高さより、そのまま現在の生活をそのまま送る価値の方が高く見積もられている。そこで、前述同様、対象者に対し、受診しないことによる具体的な損失、受診による損失の低

さ、受診による利得の高さを提示していくことが大切である。また、みんなが受診しているのだと説明することで受診行動の動機づけとするピア効果も有効と考えられる。

### ③ リバタリアン・パターナリズムとナッジ

これらの治療を受療しない理由や受療するように促す工夫を応用して、個人の行動・選択の自由を阻害せずにより良い結果に誘導するリバタリアン・パターナリズムの概念を元に、その自発的な望ましい行動選択の仕組み（「ナッジ」）を構造化していくことが求められる。そこでナッジ構築を肝炎医療コーディネーターが普段の仕事にも使えるよう、治療説得のポイントを解説書にまとめた。具体的には、意思決定を拒む要因をチェックし、有効なナッジを設計、その有効性を確認するためのチェックリストである EAST を参考に確認していくといったものである。

## D. 考察

肝炎患者、肝炎ウィルス陽性者の「受検」「受診」「受療」という行動を促進していくためには、肝炎医療コーディネーターが、行動経済学の視点から対象者の意思決定行動を理解し、より望ましい意思決定へと導くためにナッジを普段の仕事においても構築することが求められる。本年度では、プロスペクト理論や確証バイアスから行動を理解しそれを応用したナッジ構築の仕方についてポイントをまとめた解説書を作成した。これは、肝炎予防や治療へ踏み出す望ましい行動を促進することができる体系づくりの第一歩である。しかし、その有用性はまだ検証されていないため、次年度以降は有用性検証も必要であると考えられる。

## E. 結論

肝炎患者、肝炎ウィルス陽性者の「受検」「受診」「受療」という行動を「ナッジ」する（軽く背中を押す）ため、検査を受けないあるいは先延ばしにする原因にプロスペクト理論やバイアスといった側面からアプローチし、その解決策として、ナッジの構築を補助するポイントをまとめた解説書を作成した。

## F. 健康危険情報

特記すべきことなし

## G. 研究発表

論文

1. 平井 啓:働き方改革における行動科学の役割. 安全医学,15(2),14-19,2019.

学会発表

1. 水野 篤, 平井 啓, 佐々木 周作, 大竹 文雄: 乳がん検診受診行動におけるフレーミング効果の検討- インターネットランダム化比較試験の結果の考察. 行動経済学第13回大会, 2019. 11. 9 愛知
2. 大塚 侑希, 平井 啓, 福森 崇貴, 八木 麻美, 上田 豊, 大竹 文雄: 若年女性における子宮頸がん検診受診の関連要因に関する検討. 第32回日本サイコロジ学会総会, 2019. 10. 11 東京
3. 平井啓, 足立浩祥, 原田恵理, 藤野遼平, 小林清香, 谷向仁, 立石清一郎: 両立支援において復職後のパフォーマンスに影響を与える要因について~抑うつ状態並びに脳疲労状態の観点から~. 第26回日本行動医学会学術総会, 2019. 12. 7 東京
4. 平井 啓: 医療現場の意思決定はなぜ不合理になるのか: 行動経済学から意思決定支援を考える. 第43回日本臨床研究会年次大会, 2019. 11. 4 兵庫
5. 平井 啓: 医療現場の行動経済学: 患者と医療者のすれ違いのサイエンス. 日本医療・病院管理学会. 日本医療・病院管理学会(日本医学会分科会), 2019. 11. 3 新潟
6. 平井 啓: 行動経済学の観点からみた意思決定支援. 日本循環器看護学会, 2019. 11. 3 東京
7. 平井 啓: がん医療における行動経済学的意思決定支援の方法. NPO 婦人科腫瘍の緩和医療を考える会第8回総会・学術集会, 2019. 10. 12 兵庫
8. 平井 啓: 働き盛りのがん患者が「辞めないための意思決定支援」プログラムの開発, がんサイバーシップ研究成果発表会・セミナー, 2019. 1. 18

## H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
特記すべきことなし。